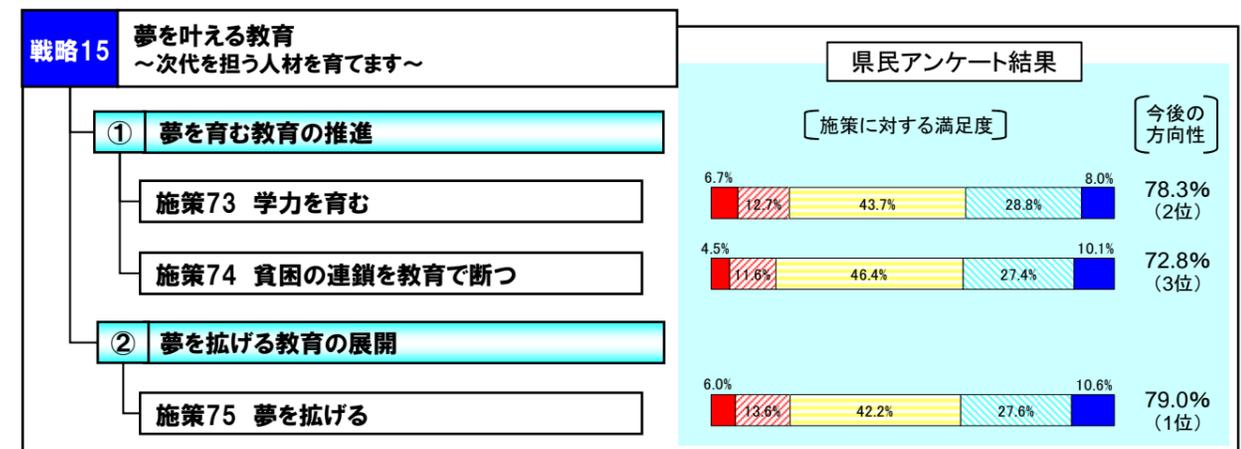
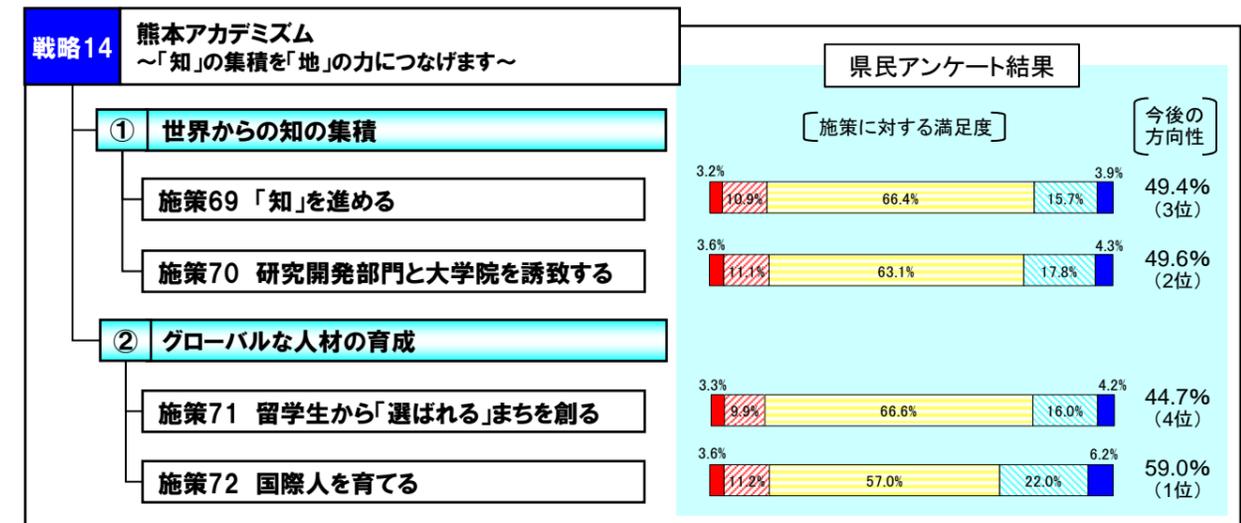
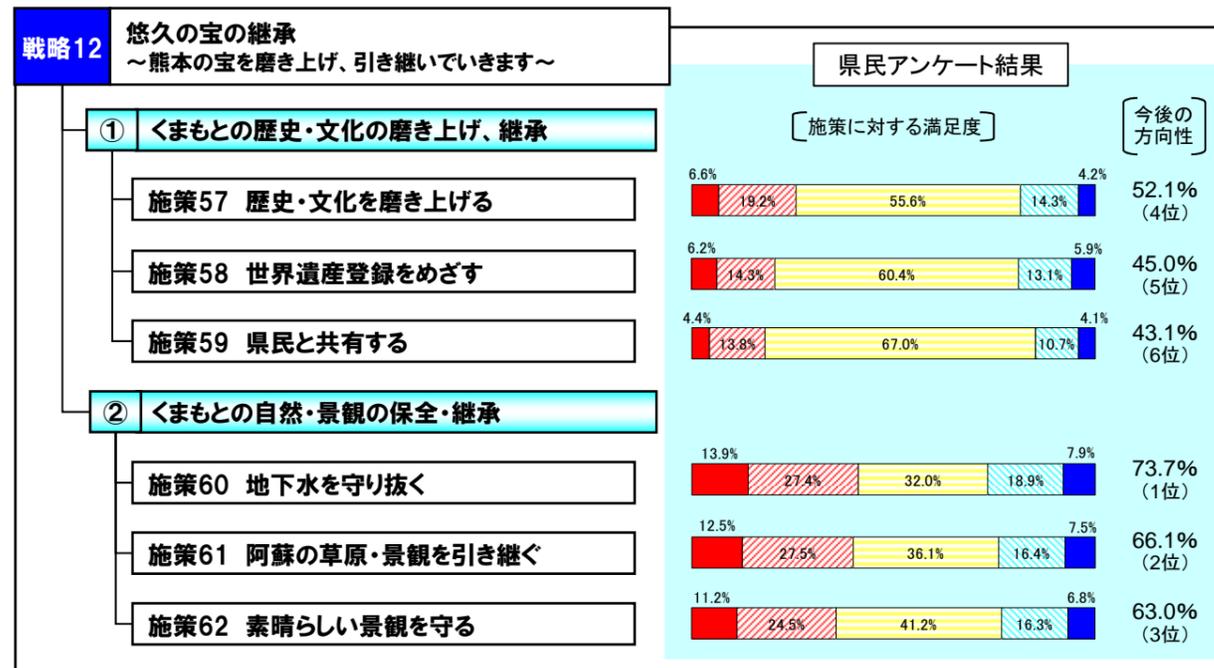
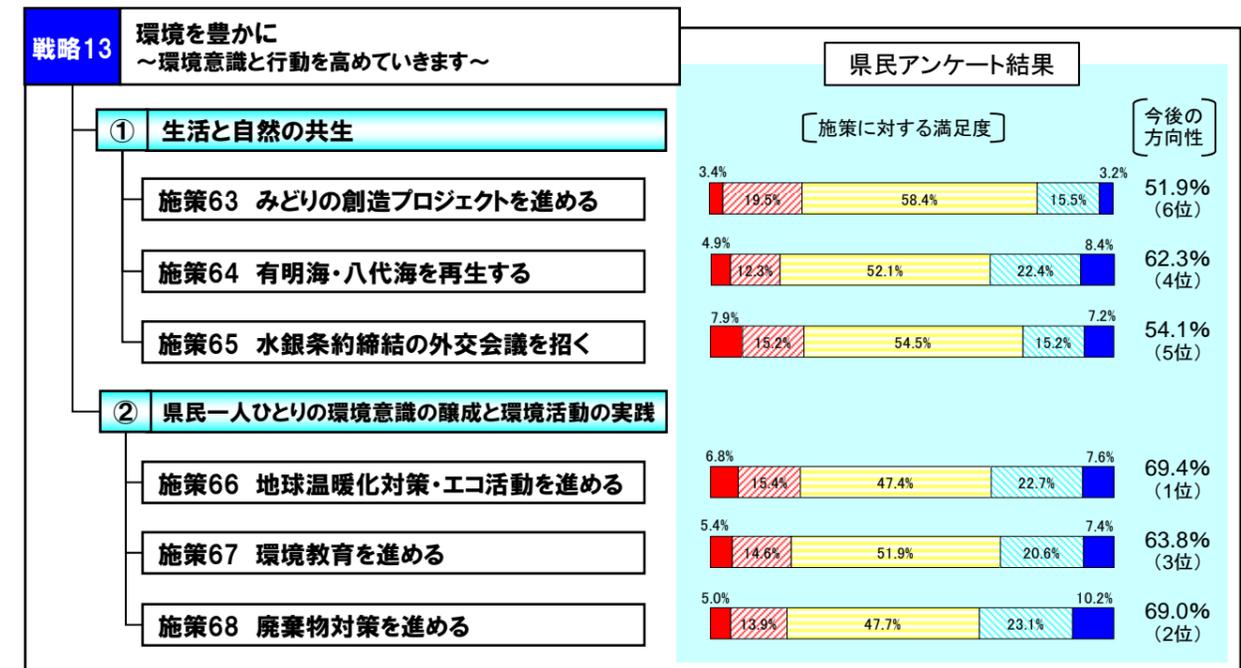
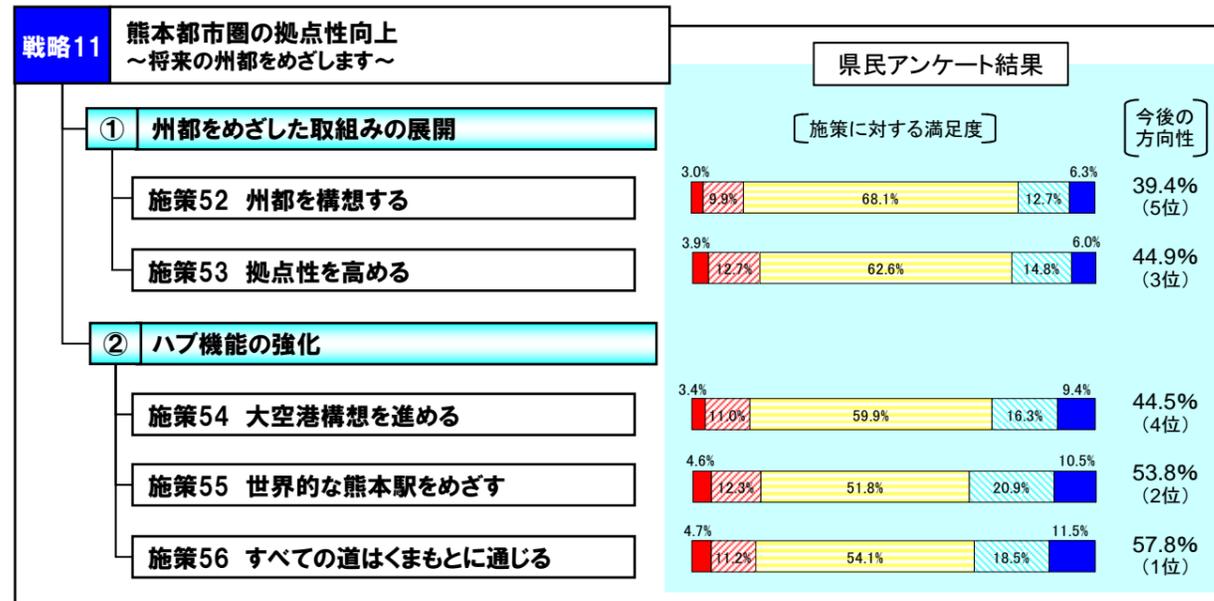


(総括評価表Ⅳ)

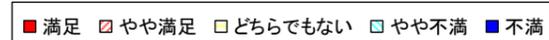
“百年の礎を築く”～「誇りを持ち、夢の実現に挑戦するくまもと」をめざします～

1 実現に向けて推進する戦略



※県民アンケート(「幸せ実感くまもと4年戦略」に関する意識調査)結果について

「施策に対する満足度」
次の5段階で示したもの。



「今後の方向性」
各施策の今後の方向性として、「もっと力を入れて取り組んでほしい」と回答した人の割合を示したもの。
()内は同施策の戦略内での順位。

2 戦略指標の動向

※下表の「指標の動向」欄及び「達成状況」欄は目標値の種類に応じて次により整理。

目標値の種類	「指標の動向」	「達成状況」
戦略策定時から最終年度までの累計値で見ていく指標		☆
最終年度(単年)の実績値で見ていく指標		★

指標	戦略策定時(年度)	評価時(H25年度)	単位	指標の動向	目標値(H27年度)	種類	達成状況	
戦略11	① 県・熊本市の政策連携協定数 (熊本県・熊本市政策連携会議で承認された取組み数)	—	5	項目		毎年度着実に増加を図る	累計	
	阿蘇くまもと空港の利用者数	279万人/年(H23)	285	万人		300万人/年	単年	
	熊本駅の乗降客数	893万人/年(推計値)	920	万人		920万人/年	単年	★
	幹線道路の整備進捗率(供用率)	41.5%(H23)	41.5	%		50.0%	単年	
戦略12	文化施設の利用者数	94.8万人/年(H23)	102.9	万人		100万人/年	単年	★
	世界文化遺産登録に関連する資産の国指定(選定)件数	5か所(H23)	11	か所		14か所	累計	
	【補】松橋収蔵庫フィールドミュージアム事業における参加者数	1万人/年(H23)	1.6	万人		2万人/年	単年	
	【補】細川コレクション 永青文庫展示関係の入場者数	3万人/年(H23)	4.3	万人		4万人/年	単年	★
	熊本地域の地下水涵養増加量(白川中流域水田湛水事業等による涵養量)	2,065万㎡(H23)	1,675	万㎡		3,600万㎡	単年	
	② 【補】景観行政を行う市町村数	7市町村(H23)	7	市町村		16市町村	累計	
【補】野焼き・輪地切りボランティア参加者数	2,137人/年(H22)	2,103	人		3,137人/年	単年		
戦略13	① 有明海・八代海の水質基準の達成度(COD)	72.2%(H22)	72.2	%		100%	単年	
	有明海・八代海の水質基準の達成度(全窒素・全リン)	83.3%(H22)	83.3	%		100%	単年	
	② 一般廃棄物排出量	57万9千トン/年(H21)	55.7	万トン/年		57万2千トン以下/年	単年	★
	【補】熊本県ストップ温暖化県民総ぐるみ運動推進会議の会員(団体)数<再掲>	304会員(H23)	345	会員		600会員	累計	
【補】環境センターの来館者数及び出前講座の受講者数	157,372人/4年(H20~H23)	38,966	人		164,000人/4年(H24~H27)	累計		
戦略14	① 研究開発部門の企業立地件数	9件/4年(H20~H23)	6	件		10件/4年(H24~H27)	累計	
	海外高校への留学生数	10人/年(H23)	19	人		100人/4年	累計	
	② 英語の学習が「好き」と回答した生徒(中1~中3)の割合	46.9%(H23)	48.4	%		毎年度、前年度の割合を上回る	単年	★
	英語の学習が「分かる」と回答した生徒(中1~中3)の割合	46.4%(H23)	47.5	%				
留學生の数<再掲>	575人/年(H23)	655	人		1,000人以上/年	単年		
戦略15	① 教科の学習が「好き」と回答した児童(小3)の割合	77.8%(H23)	76.0	%		毎年度、前年度の割合を上回る	単年	
	教科の学習が「分かる」と回答した児童(小3)の割合	83.4%(H23)	82.4	%				
	【補】「親の学び」講座実施率	50.3%(H23)	62.0	%		70%	単年	
	② 海外高校への留学生数<再掲>	10人/年(H23)	19	人		100人/4年	累計	
ものづくりチャレンジ事業・高校生の就業支援等プロジェクトの受講児童・生徒数	1,432人/年(H23)	1,342	人		1,700人/年	単年		

3 平成24年度の主な成果・今後の課題や方向性

○：平成24年度の主な成果
●：今後の課題や方向性

【戦略11】熊本都市圏の拠点性向上

- 「くまもと未来会議」の意見等に基づいて州都構想を策定。
- スポーツイベント、大型コンサート等への助成制度を創設。
- ソウル線の利用促進や中国線に向けた航空会社との交渉、台湾線に向けた知事トップセールス等を実施。
- 空港ライナーの本格運行への実証実験、崇城大学との包括連携協定締結、空港周辺及び第2空港線沿線の景観向上等、大空港構想を推進。
- 九州中央自動車道、南九州西回り自動車道、国道57号4車線化、熊本天草幹線道路の事業推進等。
- 地方の立場から道州制の議論を十分に進展させ、また、州都議論への県民の主体的参加を促進。
- 県・熊本市が連携した首都圏とアジアに向けた「くまもと」の発信の可能性検討。
- 「日本一広く美しい空港」の実現に向け、路線強化、利便性・拠点性の向上、周辺の魅力向上等を着実に推進。
- 熊本駅から中心市街地に向けた賑わいづくりの促進や景観の向上。
- 幹線道路整備の着実な推進、国への要望により新規事業化された滝室坂道路及び本渡道路事業の着実な推進。

【戦略12】悠久の宝の継承

- 鞠智城の知名度や歴史的価値の認知度が上昇。また、「くまもと歴町50選」として60地区を選定。
- 「天草の崎津集落」が世界文化遺産登録をめざす「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の構成資産に追加。「九州・山口の近代化産業遺産群」及び「阿蘇」についても、国文化財指定の追加や管理保全計画の策定等が進展。
- 「水の国くまもと」に対する県民の認知度が向上。改正地下水保全条例の全面施行で地下水取水の許可制開始。
- 阿蘇の草原維持に向けたボランティア活動の安全対策を強化。是正指導で違反広告物の件数が20%減少。
- 山鹿市番所地区で、県内初の景観農業振興地域整備計画(景観農振計画)を策定。
- 鞠智城の学会等での認知度向上と研究活性化。また、町並みの保存等に向けた民間や関係自治体との連携推進。
- 世界農業遺産に登録された「阿蘇」の国内暫定一覧表入りを含めた世界文化遺産登録をめざした活動の展開。
- すべての既採取者が許可を受け、地下水涵養対策や節水等が取り込まれるように制度の周知を徹底。
- 阿蘇の草原や景観保全の機運醸成につながる計画等の策定や防災対策の検討。
- 市町村の景観農振計画策定の推進や新幹線沿線以外の国・県道沿線等の県内各地での景観づくりの展開。

【戦略13】環境を豊かに

- 条約名を「水銀に関する水俣条約」とすること及び条約締結の外交会議の熊本市及び水俣市開催が決定。
- 南関町及び和木町のそれぞれと、県及び財団法人熊本県環境整備事業団の三者で、公共関与最終処分場に係る環境保全措置や地域振興策等を確認する環境保全協定を締結。
- 熊本らしい美しい景観と豊かな自然を身近に感じることができ環境を整備し、新たな地域の魅力を向上。
- 有明海・八代海の水質向上のために、下水道で雨水と汚水に分ける分流化も含めた合流改善を実施。
- 水俣条約外交会議の開催後も水俣への各国からの来訪者があり、水俣病の教訓や再生に取り組む姿を現地で学ぶようにするため、水俣病に関する適切な情報発信を継続。
- H27年秋頃に、環境教育の拠点となる最終処分場(クローズド・無放流型)を供用開始。

【戦略14】熊本アカデミズム

- 知の結集のシンボルとして、五百旗頭真氏を熊本県立大学の理事長に招へいするとともに、「くまもと未来会議」に新たな委員が参画。
- ターゲット企業の絞り込み、重点的なアプローチ等により、研究開発部門6件の企業立地を達成。
- 世界への飛躍を志す県内企業や芸術家、学生などの海外進出を支援する官民出資によるファンドを創設。
- 県学力調査の結果、英語が「好き」「分かる」と回答した生徒の割合はともに年度目標を達成。
- 大学や研究機関等との着実な連携により、水俣市において知の集積が図られるよう支援。
- 官民出資ファンドへの多くの寄附金の協力を得るための取組みや、ファンド充当事業の拡充。

【戦略15】夢を叶える教育

- 870カ所での「親の学び」講座が開催され、34,857人が参加。また、「くまもと家庭教育支援条例」の制定により、家庭教育の重要性への理解が向上。
- 生活保護世帯を対象にした子どもの学習・進学のための支援等に小1から高1までの76人が参加し、高校進学希望の中3生全員が進学。また、95人のひとり親等に対して在宅就労に向けた技能訓練を実施。母子家庭等就業・自立支援センターに「日曜相談窓口」を設置するなど、経済的自立等につながる環境整備が進展。
- 海外高校留学生数は県立高校11人、私立高校8人に増加。
- 全県立高校でインターンシップを実施。体験生徒数:7,279人、事業所数:2,691事業所、体験率:59.5%を達成。
- 市町村教委等と連携した「親の学び」講座の開催。また、くまもんを活用できる教育プログラム開発の推進。
- 生活保護世帯の進学希望の中3生全員が進学できるようにし、また、高校生の中退が少なくなるよう支援。
- 高校生の海外へ挑戦する意識の醸成及び進学の実績づくり。